

【理事会声明】

イスラエル・ハマスは即時停戦し、ガザ地区への人道支援を

10月7日にパレスチナのイスラム組織ハマスがイスラエルへ大規模攻撃を行い、イスラエルがハマスに報復攻撃を行うことにより、子どもや市民に多数の死傷者が出ている。10月17日には、ガザ地区ガザ市にあるアル・アハリ病院が攻撃され、その後も多数の医療機関が攻撃を受けていると報道されている。いかなる理由があれ、軍隊が民間人を殺傷することは許されない。

ガザ地区に地上侵攻するイスラエルは、11月15日、地区最大規模のシファ病院の地下にハマスの司令部があると主張し、突入した。院内には患者ら数千人の民間人がとどまっているとみられ、治療が行えないばかりか、戦闘に巻き込まれる懸念が広まっている。命を守るべき医療機関への武力行使は、いかなる理由であれ正当化できない。速やかに戦闘を止め、患者や医療従事者の安全を確保すべきだ。

11月15日、国連安全保障理事会はパレスチナ自治区ガザ地区での戦闘の「人道的休止」を求める決議を賛成多数で採択した。イスラエルとハマスの軍事衝突が始まって1ヶ月以上を経て実現した。安保理を構成する15カ国のうち、日本など12カ国が決議に賛成したが、イスラエルを擁護してきた米国は拒否権を行使せずに棄権した。カタール等の仲介により、11月24日からイスラエルとハマスのガザ地区での戦闘が休止された。

ハマスが多数の人質を奪ったことも決して許されるべきものではない。人質全員の即時の解放を求める。同時に、イスラエルによる攻撃により、子どもを含めた一般市民1万1千人以上の犠牲者が出ていると報道されており、医療機関にも空爆、武力突入する明らかな国際人道法違反であり、蛮行といわざるを得ない。生命と健康を守る医師・歯科医師として、イスラエルとハマスに対して、すべての戦闘行為を即時停止し、ガザ地区への人道支援に全力をあげることを強く求める。加えて、憲法第9条において「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求」とかかげる日本政府は、イスラエルとハマス双方に対し、即時停戦を強くはたらきかけるべきである。

2023年11月30日

鹿児島県保険医協会第8回定例理事会